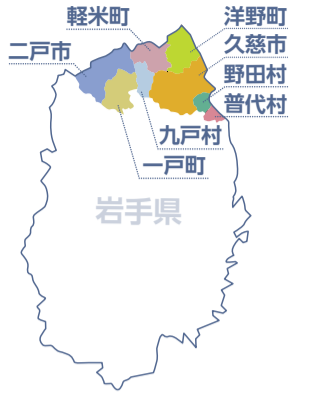




# 北いわて 復興最前線

2014



北限の海女フェスティバル(平成25年8月4日)

## 北限の海女フエスティバル

震災以降、規模を縮小し、「小袖海女つこ市」として開催されていた「北限の海女フェスティバル」が昨年8月に震災前の規模で3年ぶりに久慈市の小袖漁港で開催されました。一昨年に復旧した同漁港の荷捌施設で捌かれたウニなどの海産物が提供された他、海女さんの素潜り実演が行われました。ドラマ「あまちゃん」の人気も手伝い、県外からの観光客も増え、平成24年の3倍を超える約5000人が来場し大盛況でした。小袖海女センターは平成26年度中に再建される見通しです。



堀内の橋梁(大沢橋梁)を走る三陸列車

## 三陸鉄道全線運行再開

三陸鉄道は、震災で大きな被害を受けましたが、震災のあった平成23年には、久慈〜陸中野田間が、その翌年には陸中野田〜田野畑間が復旧し、堀内駅などは「あまちゃん」のロケ地にもなりました。現在不通となっている南リアス線金石駅〜吉浜駅間が4月5日、北リアス線田野畑駅〜小本駅間は同月6日に運行再開する予定で、三鉄は震災から約3年を経て全線運行再開することになります。また、三鉄は震災の記憶と被災地の現在を伝えるため、震災学習列車を運行させており、国内だけでなく海外からも多くの方が三陸を訪れています。

## フェスティバル



洋野町角ノ浜の大規模太陽光発電施設

## 再生可能エネルギー

県北地域では、震災後、再生可能エネルギーへの取組が進み、久慈市や洋野町を中心に大規模太陽光発電施設が建設されています。久慈市では、昨年9月に約1400kWの大規模太陽光発電施設が枝成沢地区で稼働しました。洋野町では、洋上風力発電や陸上風力発電が計画されている他、東北で最大級となる約10000kWの大規模太陽光発電施設が今年度前半から角ノ浜地区で稼働する予定です。また、野田村では、木質チップやヤシ殻を燃料にした木質バイオマス発電施設の建設が計画されています。



つりがね洞(久慈市)

大野海成段丘(洋野町)

普代水門(普代村)

十府ヶ浦(野田村)

## 三陸復興国立公園・ジオパーク

環境省は、グリーン復興で三陸の復興を推進するため、三陸復興国立公園を昨年5月に創設し、東北地方沿岸地域に「みちのく潮風トレイル」を整備する計画で、昨年11月には八戸市(無島)から久慈市(小袖)までの区間が開通しました(トレイルとは、森林や原野、山里にある「歩くための道」)。また、地質遺産の保全・活用を目的とした自然公園として、小袖海岸、十府ヶ浦、普代水門、大野海成段丘等で構成される三陸ジオパークが日本ジオパークに認定されました。これらは観光資源としての活用が期待されています。



門前小路地区の県営災害公営住宅第2団地

県営災害公営住宅第1団地(8戸分)と第2団地(18戸分)が昨年3月と今年1月に完成し、野田村の県営災害公営住宅の整備は、全て完了しました。

県営災害公営住宅 第1・2団地が完成(16)



前浜地区の防潮堤(2月6日)

前浜地区防潮堤の高さ12mまでの本体工事が1700m分(全長1340m)完了。3月下旬には、更に1000m分の工事(高さ12m)が完了する見込みで、最終的には高さ14mとなります。全体の完成は平成27年度の予定です。

前浜地区防潮堤の 本体工事が順次完了(8)



完了した下安地区の高台移転用地

国民宿舎えぼし荘に隣接する下安地区の高台移転用地造成工事は今年1月、全5区画の造成が完了しました。村では、移転者の4世帯と土地の分譲契約を締結し、1区画には村が災害公営住宅を建設する予定です。また、安家川河口沿いの宅地高上げ工事は、昨年8月に着工し平成26年度の完成を予定しています。

下安地区の高台移転用地の造成工事が完了(14)



野田漁港に完成したホタテの養殖施設

ホタテの養殖施設と養殖施設が平成24年度に完成し、今年度から本格的にホタテの養殖を開始。震災前280tであったホタテの生産量は、今年度は80t前後になる見込みで、平成26年度は200tの生産を目指しています。

今年度から本格的にホタテの養殖を開始



津波被害から復旧した宇部川地区の農地

津波被害を受けた15haを含む宇部川地区80haの農地で、現場整備事業を行っています。今年度は、実施設計及び換地計画を策定し、本年7月から、区画整理工事が開始される予定です。

宇部川地区の水田の 現場整備を実施



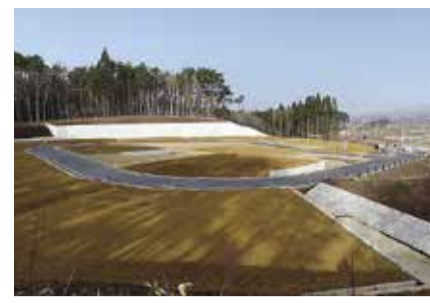
福幸インタビュー 一歩ずつ前へ!

区画整理事業の経験を生かして 被災地の新しいまちづくりに尽力

二戸市役所に28年半勤務し、駅前開発や下水道整備などの区画整備事業に関わってきた三ヶ森善智さん。みずからの経験を復興に活かしたいと決心して市職員を退職し、5年間の被災地長期派遣制度を設けた東京都の採用試験をパスして、平成24年9月に野田村に着任しました。区画整理事業でいちばん大切な事は、住民の皆さんとの合意形成。三ヶ森さんが長期派遣制度を活用した理由は、「長く関わることで、地権者の方々と信頼関係を築きながらスムーズに進めていくことが

できるから」と話します。一般の区画整理では合意形成が難航することもあります。「野田村では、地権者の皆さん全員が被災者であり、『村と住民がひとつになって復興するんだ』という強い気持ちで対応してくださるので助かっています」と笑顔で語ります。野田村の区画整理は復興計画のスケジュールに沿ってほぼ順調に進んでいます。「野田村の皆さんの人柄がとてもあたたかく、復興むらづくり推進課の雰囲気は明るい。素晴らしい環境で仕事をさせて

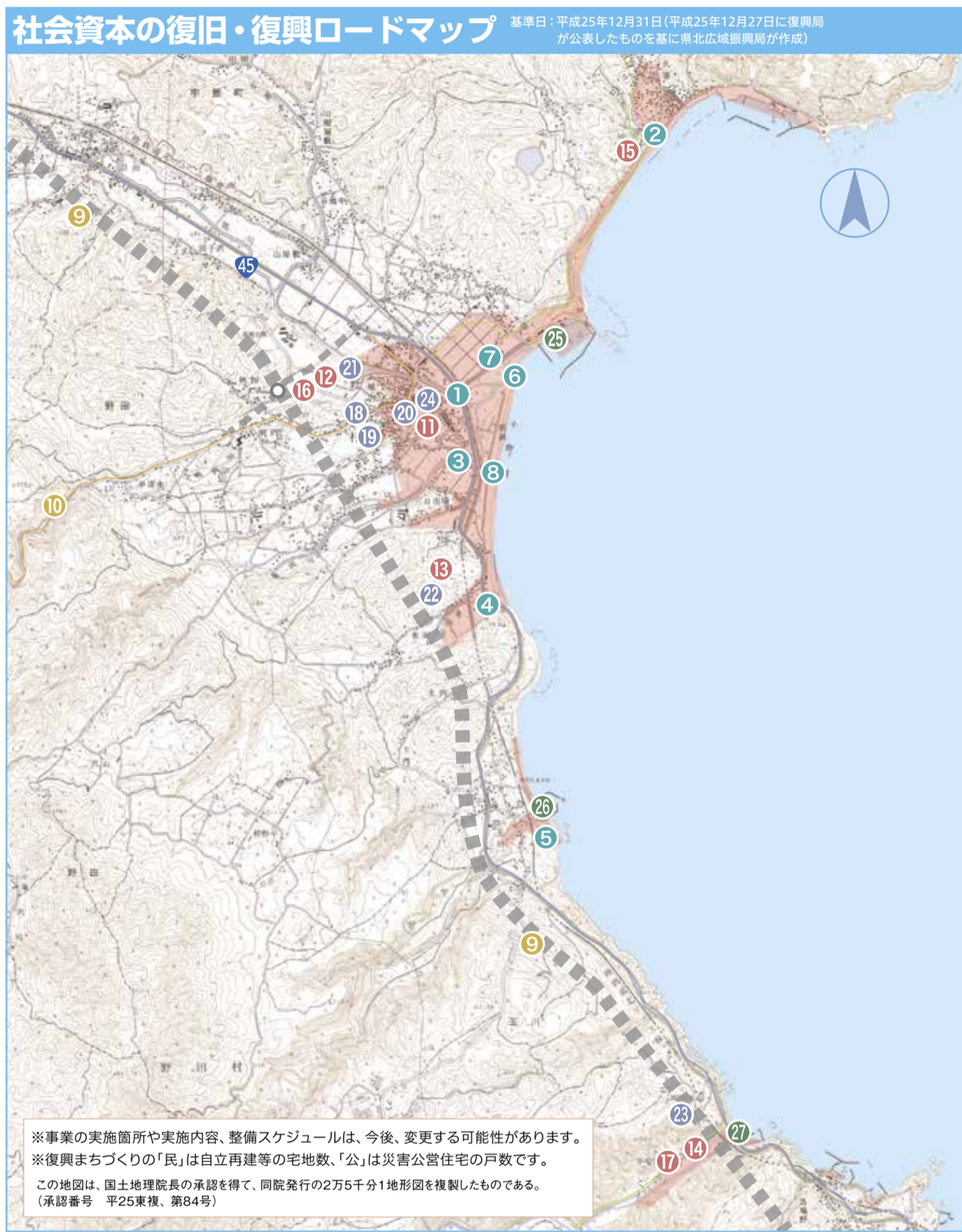
野田村復興むらづくり推進課 街並み再生班 主任 三ヶ森 善智さん



完了した米田地区の高台移転用地

区画整理事業区域で 住宅の建築工事に着手(11)

区画整理事業の仮換地指定が今年1月に9割を超え、区画の一部で住宅の建築工事が開始されています。同区域には平成27年度までに135戸分の宅地が整備される予定です。



社会資本の復旧・復興ロードマップ 基準日：平成25年12月31日(平成25年12月27日に復興局が公表したものを基に東北広域振興局が作成)

Table with project details including location, project name, and schedule across different regions like coastal safety, disaster housing, and fishery.

Table with project details including location, project name, and schedule across different regions like disaster housing and fishery.



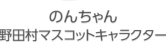
造成工事が進む城内地区の高台移転用地(2月6日)

米田・南浜地区の高台造成工事が完了(18)

全部で24区画を造成する米田・南浜地区の高台移転用地造成工事は今年1月に完了し、村は、移転者の18世帯と土地の分譲契約を締結しました。南浜地区には、村が災害公営住宅6棟を建設する予定で、今秋の完成を目指しています。

野田村

【復興の概況】 県営災害公営住宅第1、2団地が完成、高台団地の住宅建設も今後本格化



のんちゃん (野田村マスコットキャラクター)

「みんなでやっぺし!」 地元ブランド「野田ホタテ」が復活

県北部で、震災の被害がもっとも大きかったといわれる野田村。養殖施設は全滅、野田村漁協に登録されていた漁船は227隻中222隻が被災しました。野田村の養殖の柱である「野田ホタテ」は、4月下旬～5月中旬、海中に漂うホタテの種を集める「採苗」作業が始まります。「春の種を逃すと、また1年再開が遅れる。やるんだったらすぐにやっぺし。まったくのゼロからのスタートなんて初めてだったけど、まずみんなで、できるところまでやっぺし」と、震災直後、小谷地勝さんが中心

となって、野田養殖組合で養殖を再スタートしました。県内産ホタテの種苗基地でもある野田漁港は、こうして震災からわずか9カ月後、山田湾にホタテ稚貝を初出荷。小谷地さんは「うちが先にホタテの種を採らないと、よその漁協も復活できない。みんなと一緒に復興するんだ、という気持ちでした」と振り返ります。その後養殖施設の整備を進め、平成26年度中には、震災前の7割程度、140万個の出荷を見込んでいます。「地元の皆さんから、『野田ホタテの復



野田村漁業協同組合 野田養殖組合長 小谷地 勝さん

野田養殖組合は昨年、いわて農水産協議会から個性ある「産地づくり」賞水産部門賞を受賞。活を待ってだったよ」という声を聞いた時、本当に嬉しかった。震災後たくさんの支援を受けてつながったご縁をずっと大事にしていきたい」と小谷地さん。今後は、活ホタテの直売や、新鮮なおいしさを地元で体感できる仕組みづくりにも取り組みたいと意欲を燃やしています。野田ホタテブランドを活用した、新しい村おこしに夢が広がります。



長内地区の久慈市漁協製氷工場

震災で被災した久慈市漁協の製氷・貯氷施設、加工処理施設、水産物鮮度保持施設、荷捌施設等17施設が昨年までに全て復旧しました。

久慈市漁協の被災施設が復旧完了



待浜～階上区間の起工式(平成25年9月12日)

復興道路に位置付けられている八戸・久慈自動車道(待浜～階上)の工事が昨年9月に着工しました。これにより、既に一部供用済み3.2kmとなっている八戸・久慈自動車道は、平成24年8月に着工した久慈北IC～待浜を含め、残りの全区間が着工になりました。

八戸・久慈自動車道(三陸沿岸道路)の工事着工



完成した久喜地区の市営災害公営住宅

市が整備を進めている久慈湊・大崎・元木沢・玉の脇及び久喜の4地区の集団移転事業のうち、久喜地区の災害公営住宅3戸と津波避難施設が昨年12月に完成しました。元木沢地区及び玉の脇地区では、昨年11月に造成工事が終わり、自立再建による住宅や今年3月の完成を目指した災害公営住宅を建設中です(14)(15)。また、久慈湊・大崎地区では造成工事及び災害公営住宅の建設が今年3月末に完成する予定です(16)(17)。

久喜地区の災害公営住宅(16)と津波避難施設が完成

久慈市

【復興の概況】 主な水産施設は昨年までに復旧完了、集団移転事業は今年3月末に完了予定



アマリン(北限の海女キャラクター)

震災の影響により工事を中断していた久喜漁港東側のアワビ・ウニ増殖場(6.9ha)の整備を昨年夏から再開しています。震災後のアワビ・ウニ増殖場の整備は、久喜東地区がはじめてであり、アワビ・ウニの更なる増殖により、水産業の復興の加速が期待される施設です。工事は、平成28年度に完了する予定です。

久喜東地区のアワビ・ウニ増殖場を整備



増殖場となるブロックを久喜沖に沈めている様子

「骨取りさんま」がコンテストで準優勝

平成23年に復旧した久慈市漁協食品加工場の「骨取りさんま」がファストフィッシュコンテストで準優勝を獲得しました。「骨取りさんま」は、イオンが復興支援として久慈市漁協及び三陸鉄道と共同開発した同漁協のヒット商品で、パッケージには「三鉄のキャラクター」である鉄道マシンの「田野畑ユウ」が描かれています。



準優勝を獲得したスマイシー風味の「骨取りさんま」

社会資本の復旧・復興ロードマップ

基準日：平成25年12月31日(平成25年12月27日に復興局が公表したものを基に東北広域復興局が作成)



※事業の実施箇所や実施内容、整備スケジュールは、今後、変更する可能性があります。 ※復興まちづくりの「民」は自立再建等の宅地数、「公」は災害公営住宅の戸数です。 この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平25東規、第84号)

Table with columns for project categories (e.g., Coastal Safety, Road Reconstruction, Disaster Housing), project names, and detailed schedules for each phase (Phase 1, 2, 3) with specific completion dates.



学校が培った防災教育のスキルを次世代へ継承したい

久慈市立久慈湊小学校 校長 中居 澄江さん

久慈湾に注ぐ久慈川の河口から約1kmの距離に建つ「久慈湊小学校」。浸水区域のため、津波を想定した避難訓練を続けている防災教育に熱心な学校です。「震災を忘れないように」と、平成24年には5年生が三陸鉄道や北限の海女など、地域の人たちにインタビューした聞き書き授業の作文集を作っています。 久慈湊小学校では、東日本大震災直前に避難場所を徒歩10分の高台に変更し、避難訓練を実施。震災のときは子どもたち全員が無事でした。

校長の中居澄江さんは「訓練の成果がありました。子どもたちには『地震が起こったときは、急いで避難する』と教えている防災教育に熱心な学校です。震災を忘れないように」と、平成24年には5年生が三陸鉄道や北限の海女など、地域の人たちにインタビューした聞き書き授業の作文集を作っています。



震災にまつわる「聞き書き授業」を行い、平成24年12月に作文集を発行。 ときは、6年生と手をつないで避難しました。私語もありませんでした」と、子どもたちを褒めていました。 中居さんは「震災から3年が経ちますが、この期間に防災教育の土台ができたと思います。子どもたちには、避難について自分で判断できるようになって欲しい。先生が入り替わっても、学校が培った防災教育のスキルの継承を」と願っています。



ミュージカルのモデルになった久慈の縫製工場

株式会社久慈ソーイング 代表取締役 中田 利雄さん

東日本大震災の前は、ファッション水着が専門だった縫製工場「久慈ソーイング」。震災当日は全員無事でしたが、社屋の半数が津波の被害で使えなくなりました。社長の中田利雄さんは震災から一週間後、「何とか使えないものか」と、泥や塩水に浸かった100台以上のミシンの洗浄を開始。同時に、青森県五戸町と大船渡市にあった縫製工場に支援を依頼。10台のミシンを無償で譲り受けました。 中田さんは「水着に使うミシンは特殊なもので、譲ってもらったミシンは一般的な

もの。従業員には、2011年の5月から7月、カジュアルシャツの縫製研修を受講してもらい、譲り受けたミシンを使うラインを8月に立ち上げました」と話します。現在は、水着やカジュアルシャツのほか、仮設の夏井工場、リメイク商品を作っており、「新しい仕事が増えました。震災前に戻った訳ではありませんが、ここの力に応じた仕事をさせてもらっています」とのこと。 久慈ソーイングの頑張る姿を知った東京の劇団が「ミュージカルにしたい」と訪



ミシンの分解・洗浄・乾燥は、8人の手作業で約1ヶ月かかりました

れ、「ドリーム工場 東北のプラタポルテ」という再起の物語を制作し、全国50カ所で公演されました。最初の公演に招待された中田さんは「うちがモデルだけに、涙を流して観た」そうす。 「震災をきっかけに、手を貸してくれる人が増えた。お蔭でいろいろ展開ができるようになった」と、中田さんはたくさんの人に感謝しています。



太田名部漁港内の水産物加工処理施設と漁船保全修理施設が

太田名部の水産物加工処理施設等が完成間近



普代道路の開通式典(平成25年10月13日)

普代道路は、三陸沿岸道路(復興道路)の一部を構成する延長4.2kmの道路で、昨年10月に、復興道路に位置づけられている道路としては、県内で初めて開通しました。

普代道路の開通(6)



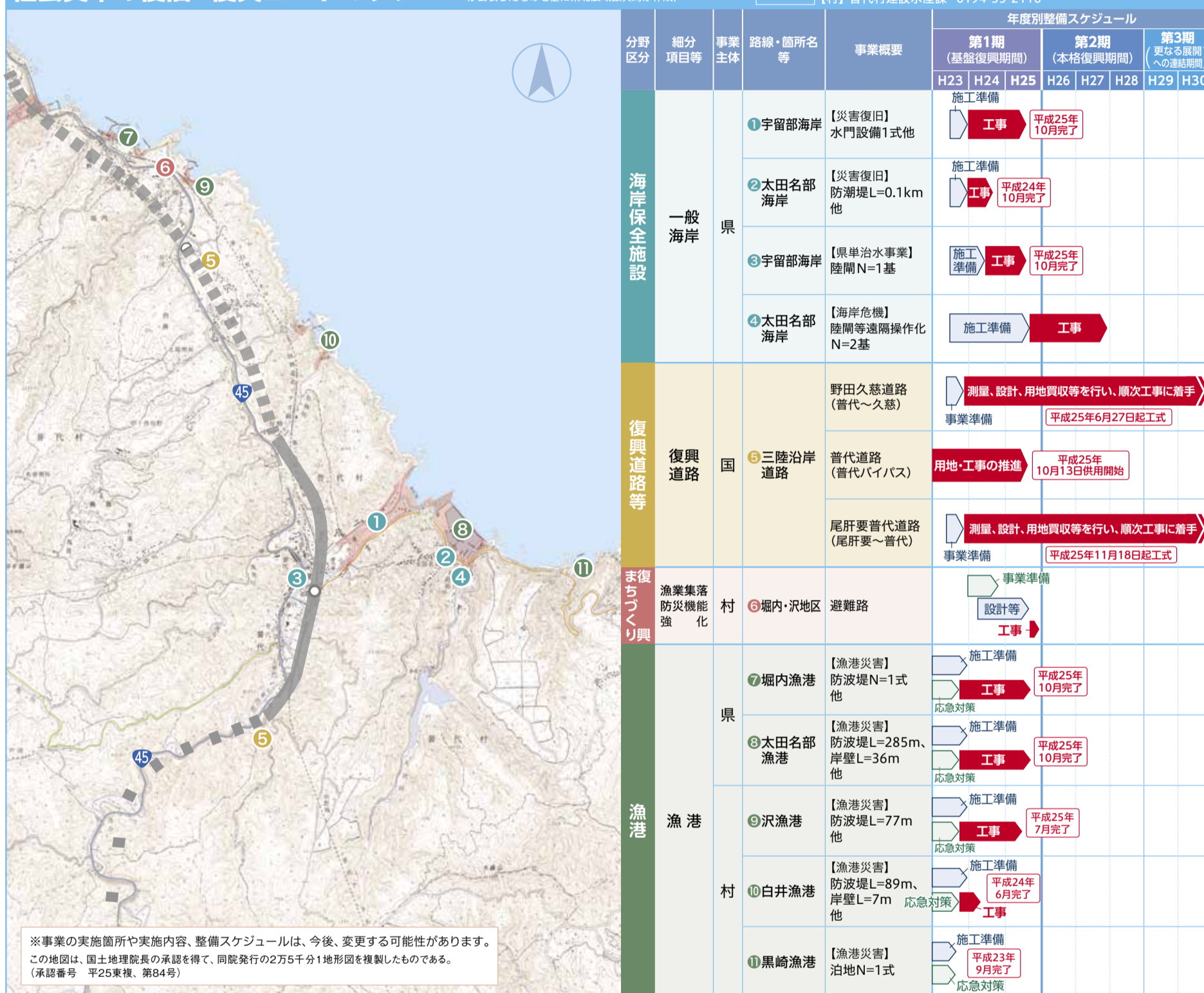
ワカメグリーン コンブブラップ(久慈地域「海の幸」PR協議会キャラクター)

普代村

【復興の概況】普代道路が復興道路として県内で始めて開通。主な水産施設の完全復旧も間近

社会資本の復旧・復興ロードマップ

【復興の概況】普代道路が復興道路として県内で始めて開通。主な水産施設の完全復旧も間近



※事業の実施箇所や実施内容、整備スケジュールは、今後、変更する可能性があります。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平25東規、第84号)



八木の増殖場でウニ漁をしている様子

ウニの漁獲量は震災前のおよそ7割

ウニの今年度の漁獲量は、震災前の7割程度でしたが、ウニの種苗生産が9割まで回復しており、八木港北部の増殖場の整備も平成26年度を目指しています。



八木地区の町営災害公営住宅

八木地区の町営災害公営住宅4戸が昨年8月に完成し、町の災害公営住宅の整備は完了しました。また、同地区には、消防屯所の機能を併せ持つ防災センターが昨年10月に完成し、保育園も新たに建設され、今年1月から開園しています。

八木の災害公営住宅(12)と防災センターが完成



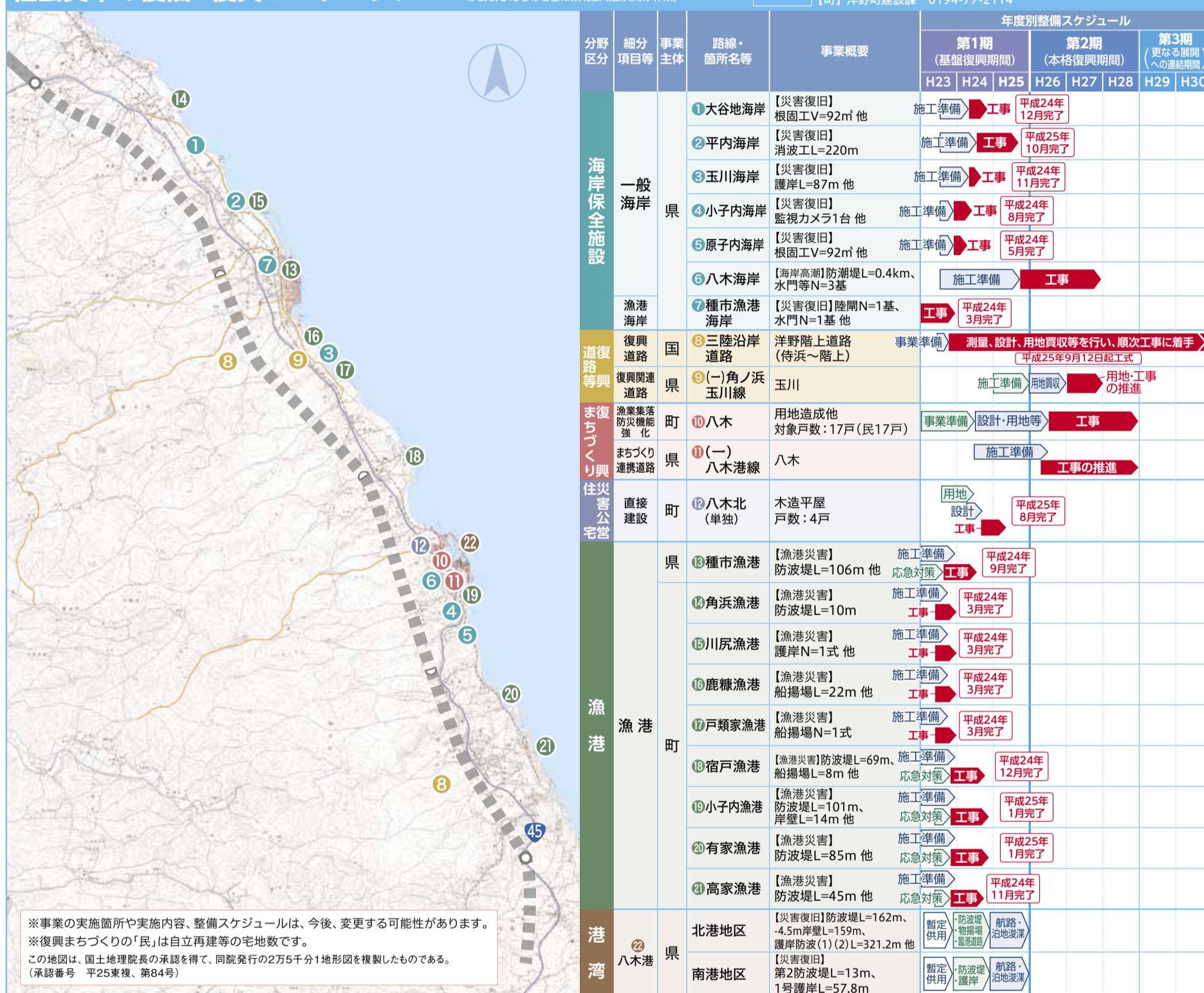
マキちゃん、ダイちゃん(洋野町シンボルキャラクター)

洋野町

【復興の概況】八木地区の町営災害公営住宅と防災センターが完成し、防潮堤は今春に着工予定です

社会資本の復旧・復興ロードマップ

【復興の概況】八木地区の町営災害公営住宅と防災センターが完成し、防潮堤は今春に着工予定です



※事業の実施箇所や実施内容、整備スケジュールは、今後、変更する可能性があります。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平25東規、第84号)



被災地から発信 普代の特産品「こんぶ」で商品開発

東京品川の和食の名店で厨房をまかせた、西伊豆のリゾートホテルで腕をふるった後、実家の精肉店を継ぐために普代村に帰ってきた上神田敏二さん。一流の舞台で鍛えられた経験を生かし、店の新商品開発に試行錯誤していた時、村特産のすき昆布の未利用部分を活用した焼肉のタレを構想しました。『すき昆布を作る時、根っこに近い部分を切り落とすんです。『これだ!』と思いました』と上神田さん。その後、『ふだいの昆布で村おこし!』プロジェクトもスタート



上神田精肉店 代表 上神田 敏二 さん。普代村特産のコンブが肉のおいしさを引き立てる「普代の昆布入り・特製生たれ」。も、結局は『人』なんだと。震災を乗り越えて、おいしいコンブを作る漁師さん。加工場を再建し、すき昆布を作っている加工業者さん。手作業でしか作れない、プライドの高い仕事をしている『人』がいる。それこそが普代の宝であり、ブランドなんです。プロの料理人として培った確かな技と、地元を愛する気持ちが、普代村の新しい魅力づくりを後押しします。



震災後2年で本格復旧 洋野町のウニ栽培漁業

箱石和廣さんが所長を務める種市事業所は、ウニで有名な洋野町にあります。東日本大震災の津波で、飼育していた600万個のウニ種苗など、すべてが海に流されてしまいました。震災直後、箱石さんは「この事業所は、もうダメだと思いました。被害の大きさに打ちのめされて、スタッフといっしょにフラフラと後片付けをしていましたが、震災の年の3月下旬から、種市高校のボランティアをはじめ、地元漁協の漁業者の手伝いで事業所のがれきり撤去が進みました。



「高校生ボランティアがキビキビと働いてくれて、がれきが見えるうちに片付けていきました。その姿に元気をもらった」という箱石さんに、多くの漁業者が「ウニは生活の糧。少しでも早く種苗生産・放流を再開して欲しい」と話したそうです。ウニの飼育は1年サイクル。「その年の8月までに事業所が復旧しなければ、ウニ栽培漁業は1年、復旧が遅れてしまう」と、箱石さんは「まるで大破した自動車を、タイヤだけで動かせるようにと直したような状態で」仮復旧の施設を稼働。事業所が本格的に復旧した平成25年度のウニ放流は、240万個にまで回復しています。『震災で漁獲できるウニが減っていますから、震災前よりも多く放流して欲しい』との声も上がっています。それに応えて、1年でも早く震災前の状況に戻るために頑張りたいと、箱石さんは決意を新たにしています。

# 二戸地域のトピックス



戦国ダンシ 九戸政実

九戸政実は戦国末期、信念と誇りを貫き、豊臣秀吉への反旗を掲げ、6万5千とも言われる豊臣軍をわずか5千の兵で迎え撃った東北地域の武将です。二戸市、九戸村の官民が連携して「九戸政実プロジェクト」や「九戸政実マンガガイドブック」の作成、「現代の九戸政実クン☆選抜総選挙」、「九戸政実まちおこしフォーラム」の開催など、九戸政実を活用した地域おこしに取り組んでいます。

## 二戸市九戸村 「九戸政実プロジェクト」展開中



御所野縄文博物館

## 一戸町 御所野縄文博物館のリニューアルオープン

開館13年目を迎える御所野縄文博物館は、今年4月にリニューアルオープンを予定しており、最新の3D映像を用いて、御所野遺跡の内容を体感できる展示室に一新されます。また、博物館や公園を詳しくご覧になりたい方は、無料ボランティアガイドの案内もあります。※御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界遺産登録を目指しています。



「かるまいブランド」に認定された12品

## 軽米町 特産品のブランド化で「食の町」軽米を情報発信

軽米町への観光客誘致等に取り組む「彩りの里交流推進委員会」（町商工会等で構成）は、1月29日に、第1回かるまいブランド発表会を開催し、「さるなしドリンク」、「そばかつげ」など町の特産12品を「かるまいブランド」に認定しました。また、同委員会が開発された商品や雑穀料理なども試食されました。今後、地域一丸となつて、食の町・軽米を全国に情報発信していきます。

## 東日本大震災津波からの復興に向けた取組状況

※「計画」は平成27年度末までの最終的な計画であり、「実績」は平成26年1月末の現状です。

### 安全・安心なまちづくり

災害公営住宅の建設

項目	進捗率	計画/実績
洋野町	100%	計画：4戸/実績：4戸
久慈市	27%	計画：11戸/実績：3戸
野田村	26%	計画：101戸/実績：26戸

自立再建住宅の宅地造成・宅地嵩上

※区画整理事業を除く

項目	進捗率	計画/実績
洋野町	0%	計画：17戸/実績：0戸
久慈市	40%	計画：15区画/実績：6区画
野田村	48%	計画：56区画・戸/実績：27区画・戸

### 水産業の再開

生産基盤等

漁船	養殖施設	定置網	魚市場	製氷貯氷施設	ふ化場
被災1,580隻	被災2,100台	被災62ヶ統	被災5市場	被災6施設	被災4施設

#### 復旧の進捗状況

項目	進捗率	計画/実績
漁港	96%	計画：141箇所/実績：136箇所
漁場	100%	計画：12箇所/実績：12箇所
漁船	84%	計画：1,580隻/実績：1,327隻
養殖施設	73%	計画：2,100台/実績：1,524台
定置網	90%	計画：62ヶ統/実績：56ヶ統
魚市場	100%	計画：5市場/実績：5市場
製氷貯氷施設	100%	計画：6施設/実績：6施設
サケ・マス親魚捕獲施設	100%	計画：6施設/実績：6施設
ふ化場	100%	計画：2施設/実績：2施設

その他、普代村漁協、田野畑村漁協の共同運営によるふ化場の整備が完了

水産物

#### 被災前の状況

養殖ワカメ	養殖コンブ	養殖ホタテ	サケ稚魚放流	ウニ種苗生産
3,400t	1,700t	280t	102百万匹	250万個

#### 復旧の進捗状況

項目	進捗率	計画/実績
養殖ワカメ	67%	計画：3,400t/実績：2,271t
養殖コンブ	109%	計画：1,700t/実績：1,847t
養殖ホタテ	25%	計画：280t/実績：71t
サケ稚魚放流	90%	計画：102百万匹/実績：92百万匹
ウニ種苗放流	96%	計画：250万個/実績：240万個

### 商工業

被災事業者の再開

被災状況：管内2,803事業者のうち359事業者(12.8%)が被災

項目	進捗率	実績
被災事業者の再開	92%	全面再開80%(287社) 一部再開12%(42社) 休業中2%(6社) 廃業6%(24社)

### 災害廃棄物の処理

久慈地域の災害廃棄物は、青森県、秋田県、宮城県、山形県、埼玉県及び神奈川県等の協力により、1月末までに約281千t処理済みであり、3月末までに処理が終了する予定です。

## 県北の絆

福幸インタビュー 一歩ずつ前へ!



## 看護師として働くために貴重な経験ができました

岩手県立二戸高等看護学院 3年生  
やました かな 山下華奈さん(右)  
よしと 美有 吉田美有さん(左)

「二戸高等看護学院」は、震災の年から野田村の災害支援ボランティアを学校行事として継続的に行っています。

山下華奈さんと吉田美有さんは1年生から3年生までの毎年学校行事のボランティアに参加。被災者の方や保育所、役場、消防署など災害現場等で働く人たちにハンドマッサージを行ってきました。

1年生のときのボランティアで、山下さんは「ハンドマッサージをしながら話を聞いたとき、子どもの前では泣かない保育士が涙を流す姿を見て、辛い気持ちを押し

し隠していたのだと感じました」と話し、吉田さんは「習っていたことは1年生で少なかったけど、皆さんの癒しにちょっとでもなれば」と思ったそうです。

2年生、3年生のときのボランティアについて、山下さんは「固かった手が柔らかくなった頃、『気持ち軽くなった』といわれて、嬉しくなりました」と話し、吉田さんは「震災から時間が経つほど、詳しい体験を話す人は増えましたが、心に大きな傷を抱えたままだと感じました」とのこと。

山下さんは「この経験から、患者さんや



ハンドマッサージは、授業で学んだように話を聞く姿勢で臨みます

ご家族の心に寄り添う看護師になりたいと思いました」と話し、吉田さんは「被災したのに、患者さんの命を守るために活動した看護師の話を聞き、自分も患者第一の看護師になりたいと思いました」と目標を語ります。

今年3月に卒業する2人は、4月から念願の看護師としての第一歩を歩み出します。